

自分史の中の長崎医療センター

和光会 恵寿病院院長(前長崎医療センター副院長)

中原 賢一

<はじめに>

皆様、こんにちは。恵寿病院の中原です。

今回の国病久原会総会において、記念講演を依頼されました。大した功績があるわけではないので、何を話したら良いか大変悩みましたが、10年間過ごした長崎医療センター勤務が自分にどのような意味があったのかを振り返ろうと考え、「自分史の中の長崎医療センター」というテーマで話すことにしました。

<医師としてのスタート、長崎から東京へ>

私は昭和54年、長崎大学医学部を卒業し、長崎大学医学部附属病院第3内科に入局しました。1年間第3内科で橋場邦武教授にご指導を受けた後、2年目に東京都養育院付属病院に赴任しました。ここは将来の高齢社会に備えた、65歳以上しか入院ができない病院で、他に老人研究所や老人ホームなどを併せ持つ複合施設でした。行ってみて長崎の医局との院内文化の違いに驚きました。まず全ての上の先生から「先生」づけで呼ばれたこと、次には仕事をする人には積極的に支援するけれど、仕事をしない人に強いることが無いことでした。楽だけど自律的にやらないとどんどん取り残されると感じました。

最初に所属した循環器病棟の医長が松下哲先生でした(写真1)。

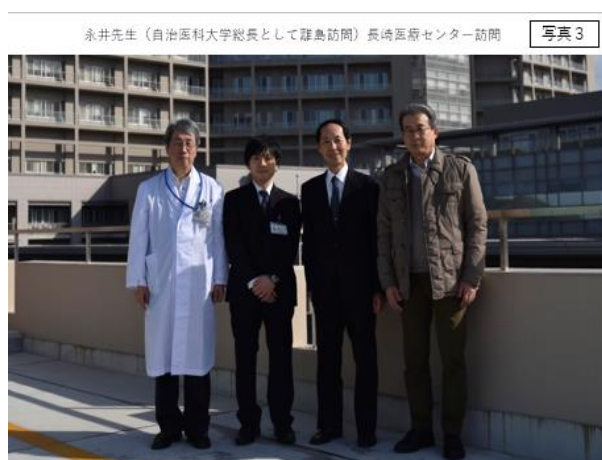


松下先生は私が知る医師の中で最も無口な先生です。自分が上から強力に引っ張るタイプは無く、自発性を重視する先生で、おだやかに見守りながら、仕事を積極的にサポートしてくれました。松下先生のもとで初めての生化学研究として筋肉内酵素の精製に携わりました。臨床と研究を行いながら3年余り勤務した後、大分県宇佐市の宇佐高田医師会病院に2年半勤務しました。ここでは一般内科医として多くの救急および重症患者を診ました。

その後長崎大学第3内科に帰り、1年間病棟勤務を行い、その後2年間、長崎市内の病院で勤務しました。

<研究生活に憧れ、ふたたび東京へ>

長崎に戻る時には大学での研究生活に憧れていましたが、長崎では叶わず、東京都養育院付属病院の松下先生に相談したところ、自分の後輩にあたる永井良三先生(のちの群馬大教授、東大第3内科教授、現自治医科大学総長)(写真2、3)が米国から帰国され、研究室を立ち上げたところだからと紹介していただきました。平成元年から東京大学の検査部医員として永井先生の研究室に加わり、血管の分子生物学の研究を6年間続けることが出来ました。



永井先生は人および医師として、頭脳や人格などの全てにおいて別格で、何一つかなわないと感じる先生でした。常に冷静に分析し、研究の方針を立て、研究室のメンバーを指導されました。

研究室には全国から永井先生を慕って人が集まり、10名以上が集まる賑やかな研究室となり、その仲間たちと研究や学会活動など楽しく過ごしました。ある時、それは全く想定していなかったことでしたが、「研究の成果をまとめて論文博士を取ったらどうですか。」と永井先生から提案があり、それまでの実験結果をまとめ、東大で博士号をいただくことが出来ました。その後永井先生が群馬大学の教授に決まり、研究室は発展的解消になりました。

<東京都老人医療センターでの老人医療と循環器医療>

この時に松下先生が東京都老人医療センター(養育院附属病院から改名)の副院長となられることになり、私を松下先生の後任に推薦していただき、東京都老人医療センターに検査部医長として2回目の赴任となりました。

東京都老人医療センターでは、小澤利男院長のもと、日本で初めて開設される総合機能評価(Comprehensive Geriatric Assessment; CGA)病棟という新しい老人医療システムの実験的病棟で活動しました。

この病棟では、

高齢者を疾患(disease)という視点のみならず、認知機能、ADL、社会的環境などの生活機能障害(disability)を同時に評価し、総合的な判断のもとにチーム医療とケアを進めるというものです。

この考え方はとても重要であり、現在の老人医療の根幹をなすもので、現在の介護保険制度にも応用されています。この病棟で循環器の医師として、心不全のCGAに取り組み、リハビリチームと連携し、その頃まだ常識的ではなかった心不全患者への運動療法を試みました。その結果、患者の心不全による再入院率の低下や医療コストの削減などの成果を出すことができました。

もう一つの東京都老人医療センターでの仕事は連続剖検例の遺伝子バンクを作ったことです。当時約200例/年と全国で2番目に剖検が多い病院でした。それまで臨床と剖検を組み合わせた疫学的研究が多かったのですが、そこに遺伝子を加え、臨床と病理と遺伝子の3者を組み合わせた疫学的研究の基礎を作りたいと考えました。病理部門にも協力していただき、5年間で約1000例の連続剖検例の遺伝子を蓄積することができました。その結果様々な学会発表とともに、Circulation という英文誌に「心臓の重量にアンジオテンシン変換酵素遺伝子多型が関与する」という論文を発表することができました。私が帰郷後は病理部の先生に仕事を継続していただき、遺伝子を用いた多くの論文を出していただきました。

<自分史の中の長崎医療センター、米倉院長はじめ、多くの人との出会いより学ぶ>

平成14年に父親がなくなり、母が一人になったため、帰郷することを決め、医局に相談したところ、長崎医療センターへの異動となりました。実は赴任するまで長崎医療センターについてはほとんど知りませんでした。

赴任は米倉正大先生が院長に就任されるのと同時でした。長崎医療センターはちょうど発展の時期で米倉院長の10年間に、診療規模、医師数、職員数は約2倍に発展しました。この間様々なことがありました。高速道路に救急車専用出口の設置、ドクターヘリ運用開始、電子カルテの導入とアジサイネットの開始、活水看護大学の開設、中国やカザフスタンとの交流などです。別紙に10年間の多くの出来事を「長崎医療センターニュース」をもとに書き出してみました。ご参照ください。

私は3年目に統括診療部長、5年目に副院長に任命され、計8年間、微力ながら米倉先生を支える仕事をさせていただきました。この間の思い出深い出来事をいくつか挙げさせていただきます。

病院機能評価受審は統括診療部長での初仕事でした。米倉先生に呼ばれて、病院機能評価の担当をするように指示されましたが、全く初めてのことで、何もわからず、経験のある病院に話を聞きに行ったり、他の機構病院での経験者に助けをいただいたり、病院全体で大変苦労しながら受審となりました。一発合格した時にはとても嬉しく思いました。病院全体が機能評価という一つの目標に向かうために一致団結出来たことが大きな達成感につながったと考えています。

(写真4)



皇太子の行啓はとても心に残る出来事でした。長崎医療センターが皇室訪問に値する組織になれたのだと感じ、これまでの病院の業績が認められたと感じました。(写真5)

行啓

写真5



東北大震災の放射線サーベイ活動は忘れられません。災害の大きさとその苦痛を感じたことに加えて、先年なくなった松岡陽治郎先生とのチーム活動だったからです。松岡先生は一見豪放磊落に見える先生ですが、実は繊細な心遣いをされる方でした。職場での信頼の厚さは彼のこの性格によるものと理解できました。放射線サーベイの仕事は大変でしたが、松岡先生から専門家として貴重なアドバイスをいただきながら、やり遂げることが出来ました。松岡先生と寝食を共に仕事をしたのはこれが最初で最後となり、貴重な思い出になりました。(写真6)

東北大震災診療応援

写真6



副院長の時期に多くの院内外の皆さんの協力のもとに、診療情報研究会を立ち上げたことも忘れられません。この会は当時 DPC など、目まぐるしく変化する医療情勢の中、長崎県内の主に急性期病院の診療情報管理士や医事課職員を対象として、その勉強と情報共有、さらに親睦を目的としたものです。長崎医療センターを離れた今は、会長を心臓外科の濱脇正好先生にお願いし、自分は名誉会長の立場にあります。この会は非常に活発に活動を行う研究会に成長しました。現在年4回の研究会を開催し、設立10年で研究会は40回を重ねています。それだけのニーズがあったということで、研究会が長崎県内の診療情報管理士や医事課の職員に役立っていると実感しています。

統括診療部長と副院長の計8年間、病院を発展させる原動力である米倉先生の考え方や仕事のやり方を傍で見たことは大いに勉強になりました。また仕事を通じて院内外の先生方、またパラメディカルの方々と知り合うことが出来、多くの友人を作ることが出来ました。

<民間病院の院長へ転身して>

平成24年米倉先生の退職とともに副院長を辞し、医療の現場に戻ろうという気持ちで現職の恵寿病院に異動しました。恵寿病院は有喜福祉村と呼ばれる、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、介護医療院、老人保健施設、グループホームなどの施設群の付属病院的役割をもつ療養型病院で、以前勤務した老人医療センターとよく似た構成です(写真7)。現在は高齢者の診療とともに管理職として病院の運営に携わりながら日々活動しています。

うき福祉村

写真7



恵寿病院に異動する頃に、ある学会で老人医療センター名誉院長の小澤利男先生に異動についてお話したところ、「院長の背中を職員全員がみているから、頑張りなさい。」とアドバイスをいた

だきました。生来私はリーダーには向かないキャラクターと自覚していますが、門前の小僧として、米倉先生から学んだことをもとに、以下のような努力をしています。

組織は職員の心の集合体であるということを常に考えています。皆の心が一つになった時の組織の勢いは強いのですが、逆に皆の心が散漫になると組織の勢いは大きく削がれます。重要なのは職員の自発性であり、職員が自由活発に活動できる環境を作らねばなりません。そのために院長に必要なのは、

- ① 誠実で、傲慢にならない
- ② ビジョンを持ち、そのビジョンをわかりやすく職員に伝える
- ③ 現在の課題や問題点を皆で共有する
- ④ 情報を迅速に職員に伝える
- ⑤ 医療情勢、社会情勢などの情報収集に努め、遅れずに対応する
- ⑥ 個人の能力に頼るのではなく、仕組みを作り、仕事として自然に流れるようにする、などです。

これらの努力に職員が反応してくれたのか、恵寿病院の実績は右上がりに改善してきました。また患者にとって好まれる病院とともにスタッフが長く働ける病院作りにも取り組み、離職者数がここ数年随分減少しました。今後も働ける間はこの努力を続けていきたいと思っています。

<まとめ>

最後になりますが、今年私は65歳になりました。長崎医療センターにいたら定年の年に、この久原会で講演させていただき、良い区切りとなりました。長崎医療センターの時期をはじめ、これまでの医師生活の40年間において、常に身近に自分が目標とする先生に恵まれ、またご指導いただけたことは自分にとってこの上もない幸せでした。

別紙 10年間(H14年4月から24年3月まで)の出来事

(長崎医療センターニュースより)

日付	種類	出来事
H13.9.1	ハード	新病棟に移転
H14.3.4	ハード	オーダーエントリーシステム(処方、検体検査、生理検査、内視鏡、病理)、全自動分注搬送システム開始
H14.4.1	人事	米倉院長、向原副院長、古賀診療部長
H14.4.2	人事	リスクマネージャー設置
H14.6.1	ハード	放射線部門画像管理稼働
H14.9.2	ソフト	地域連携室立ち上げ
H14.9.17	ハード	自動注射払い出しシステム稼働
H14.10.1	ハード	臨床研究センター開所
H14.10.1	人事	石橋大海臨床研究センター長、八橋治療研究部長
H14.10.2	ソフト	HP立ち上げ
H14.10.15	ハード	外来オーダーリングシステム稼働
H14.12.2	ハード	病名オーダーリング、外来注射オーダー開始
H15.1.6	ハード	再診予約オーダー開始
H15.3.2	ハード	病院裏高速道路通用口開始
H15.4.1	人事	宮下診療部長、8名の管理運営部長、古賀先生嬉野医療センター院長へ昇任
H15.4.1	ソフト	地域医療支援病院認定
H15.10.11	ソフト	野岳湖BBQ大会(第1回・新企画)
H16.1.5	ハード	外来棟完成(定礎式)
H16.3.24	ハード	新外来管理棟での診療開始
H16.3.24	ハード	紙カルテから電子カルテに全面移行
H16.4.1	人事	宮下副院長、中原診療部長、江崎先生川崎医大に総合診療科教授として転出
H16.4.1	ソフト	研修医マッチングシステム導入
H16.4.1	人事	ソーシャルワーカー1名導入
H16.4.1	ソフト	離島僻地医療支援センターオープン
H16.4.1	ソフト	独立行政法人へ移行(独立行政法人国立病院機構長崎医療センター)
H16.4.1	ソフト	臨床研究センターが長崎大学連携大学院となり連携
H16.4.1	ソフト	ナースキャップ廃止、看護師のユニフォームやシューズの変更など
H16.4.1	ハード	リストバンド運用開始
H16.7.1	ソフト	病院機能評価(初回)受審決起大会
H16.7.1	ソフト	産婦人科オープンシステム開始
H16.10.10	ハード	大村市都市景観賞受賞
H16.10.10	ソフト	第1回長崎・南京学術交流会(南京へ／米倉院長はじめ臨床研究センターメンバー)、学術交流協定締結
H16.10.10	ソフト	院内癌登録委員会設置
H16.10.15	ハード	あじさいネット運用開始
H16.11.1	ハード	ヘリポート完成。長崎医療センター整備工事終了。
H17.1.2	ソフト	癌拠点病院認定
H17.2.24	ソフト	病院機能評価(初回/Ver4.)受審

- H17.3.1 久原会 国病久原会よりグランドピアノ寄贈(寺本先生を偲んで／外来に設置)
- H17.3.19 ハード ヘリポート開所式、Hem-Net国松先生講演
- H17.4.1 久原会 「国病久原会の歩み」を廣田先生が長崎医療センターNEWSに寄稿
- H17.5.12 ソフト 第2回長崎・南京学術交流会(長崎にて)
- H17.5.13 ソフト 病院機能評価一発認定
- H17.6.24 ソフト DPC調査協力病院として認定
- H17.11.3 ソフト 第1回健康フェスタ開催
- H17.11.3 久原会 第12回久原会
- H17.12.1 ソフト 病棟クラーク導入
- H18.2.1 ハード ドクターヘリ導入決定(国立病院機構初、全国で10機目)
- H18.4.1 ソフト 2:1看護開始
- H18.4.1 ソフト 長崎医療センター治験実績向上・記録更新
- H18.4.1 ソフト 新研修制度第1期生修了、後期臨床研修制度開始
- H18.5.14 ソフト 長崎DMAT始動準備
- H18.6.1 ハード 外来化学療法センター運用開始
- H18.7.1 ソフト DPC導入開始
- H18.9.17 ハード 台風13号で病院に被害あり
- H18.10.28 ソフト 第1回研修医宿泊研修 (江崎宏典川崎医大総合診療科教授講演)／雲仙
- H18.11.3 ソフト 第2回健康フェスタ
- H18.11.3 ソフト 第3回長崎・南京学術交流会(南京にて)
- H18.11.30 ハード ドクターヘリ運行開始式
- H19.3.26 ハード フィルムレスシステム運用開始
- H19.3.31 ハード 宿舎「ラフィネ」完成 3階建30戸x2棟(60戸)
- H19.4.1 人事 副院長中原、江崎統括診療部長(川崎医大より引き抜き)、宮下先生は川棚医療センター院長へ昇任
- H19.4.1 ソフト 7:1看護導入
- H19.4.1 ソフト 相談支援センター(地域前方後方連携と医療相談、癌相談支援)設立
- H19.4.1 ソフト 臨床教育センター設立
- H19.4.1 ソフト 医療制度改革の流れ;4疾患5事業(ガン、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病／救急医療、災害医療、僻地医療、周産期医療、小児医療)
- H19.4.27 ソフト カザフスタン循環器病センターとの学術交流開始
- H19.6.9 ソフト 第4回長崎・南京学術交流会(長崎にて)、南京大学検査技師留学決定
- H19.7.1 ハード 総合母子周産期医療センター開設(安日先生)
- H19.7.3 ソフト カザフスタンより、冠疾患治療患者入院、PCI治療
- H19.8.1 ソフト 長崎県の肝疾患診療連携拠点病院に指定(全国初)
- H19.9.22 ソフト 第2回臨床研修医・指導医宿泊研修セミナー／嬉野
- H19.9.29 久原会 長崎医療センター付属看護学校開学60周年記念式・シーハット
- H19.10.12 ソフト 診療情報研究会発足(第1回研究会)
- H19.10.27 ソフト 野岳湖BBQ大会(第2回)(松屋臨床医師協議会会長)
- H19.11.3 ソフト 第3回健康フェスタ
- H19.12.2 ハード 活水女子大学看護学部設立新聞発表
- H20.2.28 ハード 長崎医療センターHPリニューアル
- H20.3.11 ハード 宿舎「ジュネス」完成 3階建18戸x3棟(54戸)

- H20.3.20 ソフト 年度末手当初めての支給
- H20.4.1 久原会 広報誌に「古き良き時代」掲載開始。まずは廣田会長、ついで浦山副会長、馬場先生、岩崎栄先生、今村甲先生、北島陽夫先生、進藤和彦先生、峰唯信薬剤科長、出口八重子同窓会新会長、内田象之先生
- H20.4.1 ソフト 米倉院長が九州ブロック理事に就任
- H20.4.1 ソフト ドクターヘリ500回達成
- H20.4.1 その他 大村市立病院が地域医療振興協会を指定管理者として公設民営病院として再スタート(立花一幸管理者)
- H20.9.21 ソフト 第3回臨床研修医・指導医宿泊研修セミナー／嬉野
- H20.10.4 ソフト 第1回米倉杯ソフトボール大会
- H20.10.18 久原会 第13回久原会「長崎医療センターの現在・過去・未来」
- H20.10.25 ソフト シュシュでBBQ大会(第3回)夜の開催に(佐々木臨床医師協議会会長)
- H20.11.1 ソフト 第3回健康フェスタ
- H20.12.6 ソフト 第2回診療情報研究会
- H20.12.12 ソフト 第5回長崎・南京学術交流会(南京にて／中原団長)
- H21.1.1 ソフト 風格のある病院を目指す(米倉院長方針)
- H21.1.17 ソフト 第3回診療情報研究会
- H21.3.20 ソフト 長崎DMAT始動
- H21.4.1 ソフト 第2回病院機能評価受審準備開始
- H21.4.2 ソフト ドクターヘリ1000回突破
- H21.4.18 ハード 活水女子大学看護学部開学式
- H21.4.25 ソフト 第4回診療情報研究会
- H21.6.12 ソフト 第11回日本医療マネージメント学会(長崎)開催
- H21.6.12 ソフト 新型インフルエンザ流行
- H21.7.16 ソフト 皇太子行啓
- H21.8.25 ソフト カザフスタンとの交流(前田先生らカザフスタンへ出張)
- H21.9.14 ソフト 新電子カルテシステム稼働開始
- H21.9.26 ソフト 第4回臨床研修医・指導医宿泊研修セミナー／嬉野
- H21.10.2 ソフト 長崎～アルマティCTプロジェクト立ち上げ
- H21.10.17 ソフト 第2回米倉杯ソフトボール大会
- H21.10.31 久原会 長崎医療センター附属看護学校同窓会開催
- H21.11.2 ソフト 新型インフルエンザワクチン接種
- H21.11.9 ソフト 研修病院機能評価受審(卒後臨床研修評価機構)
- H21.11.14 ソフト シュシュでBBQ大会(第4回)
- H21.12.24 ソフト 忘年会で広報誌委員会に功労賞いただく(長崎医療センターの現在進行形の歴史の記録の方針)
- H22.1.1 ソフト 風格のある病院を目指す「医療の質を公開する」(米倉院長方針)
- H22.1.15 ソフト インドネシア人看護師候補者受け入れ
- H22.1.29 ソフト 第6回長崎・南京学術交流会(長崎にて)・医学交流協定の更新締結
- H22.2.2 ソフト アイランドナース発足式(上五島病院で)
- H22.2.24 ソフト 病院機能評価受審(第2回／Ver.6)
- H22.3.11 ソフト 第7回長崎・南京学術交流会(南京にて／江崎団長)
- H22.4.1 ソフト 医療の質の公開(診療科の実績パネルの掲示)

- H22.4.1 ソフト 宮崎病院診療応援(第2回目のシリーズ)
- H22.5.1 ソフト 薬学部生実習受け入れ開始
- H22.5.7 ソフト 第2回病院機能評価一発認定
- H22.5.15 ソフト 第1回あじさいネット研究会開催
- H22.6.1 ソフト 長崎・アルマティ心臓病診断治療プロジェクト開始(アミール医師当院留学)
- H22.6.2 ソフト あじさいネット連携数1万人突破
- H22.9.1 ソフト 改正臓器移植法後の家族同意下の献腎移植症例(全国5例目、九州で1例目)
- H22.9.25 ソフト 第5回臨床研修医・指導医宿泊研修セミナー／嬉野
- H22.10.1 ハード リニアック棟増築開始
- H22.10.1 ハード 研修医宿舎建築開始(元の宿舎F棟とH棟の跡地)
- H22.10.2 ソフト 第14回へき地離島救急医療研究会開催(長崎医療センター)
- H22.10.30 ソフト 第3回米倉杯ソフトボール大会
- H22.11.1 ソフト 脳死臓器提供(法改正後23例目、当院初めて)
- H22.11.3 ソフト 第5回健康フェスタ(H21は新型インフルの流行で中止)
- H22.11.6 ソフト シュシュでBBQ大会(第5回)
- H22.11.10 ソフト 第14回久原会「閉校にあたり看護学校の回顧」浦山康子同窓会会長
- H22.11.26 ソフト 国立病院総合医学会総会(米倉先生会長／福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル)
- H23.1.1 ソフト 風格のある病院を目指す「患者満足度を追求する」(米倉院長方針)
- H23.1.4 ソフト 大村市内科系夜間初期診療開始
- H23.2.2 ソフト ドクターヘリ2000件突破
- H23.2.28 ソフト カザフスタンから初めての肝疾患患者治療入院。
- H23.3.11 ソフト 東日本大震災発生;放射線サーベイチームと医療支援チームの派遣
- H23.3.13 ソフト 附属看護学校閉校記念式典
- H23.3.23 ハード 研修医宿舎「あかしや新館」完成
- H23.3.31 ソフト 長崎大学連携大学院第1号卒業生
- H23.4.25 ハード 患者図書室「あかね」オープン
- H23.6.1 ソフト ヘリドック太(長崎医療センターゆるキャラ)デビュー
- H23.7.1 ハード 癌放射線治療棟完成・2台目のリニアック稼働
- H23.9.17 ソフト 第6回臨床研修医・指導医宿泊研修セミナー／嬉野
- H23.9.27 ソフト カザフスタン・アルマティ市の循環器病学・内科学・科学研究所と学術交流締結
- H23.10.22 ソフト シュシュでBBQ大会(第5回)
- H23.11.1 ハード NIMAS(医療者搬送システム)の試験的運用開始
- H23.11.3 ソフト 第6回健康フェスタ
- H23.11.12 ソフト 第18回航空医療学会(ブリックホール・高山隼人先生)
- H23.12.1 ソフト 第8回長崎・南京学術交流会(長崎にて)
- H24.1.1 ソフト 風格のある病院を目指す「外来の機能強化で患者さんの満足度を高める」(米倉院長方針)
- H24.1.4 ソフト 外来機能強化;予約入院支援センターの設立準備
- H24.1.29 ソフト 長崎県国民保護共同実動訓練;対テロ訓練
- H24.3.31 人事 米倉院長、石橋臨床研究センター長、中原退任